

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和4年5月12日（木）

2 確認箇所

Eタンクエリア

3 確認項目

- (1) Eタンクエリアのフランジ型タンクの残水移送作業の状況
- (2) Eタンクエリアの堰等の補修状況

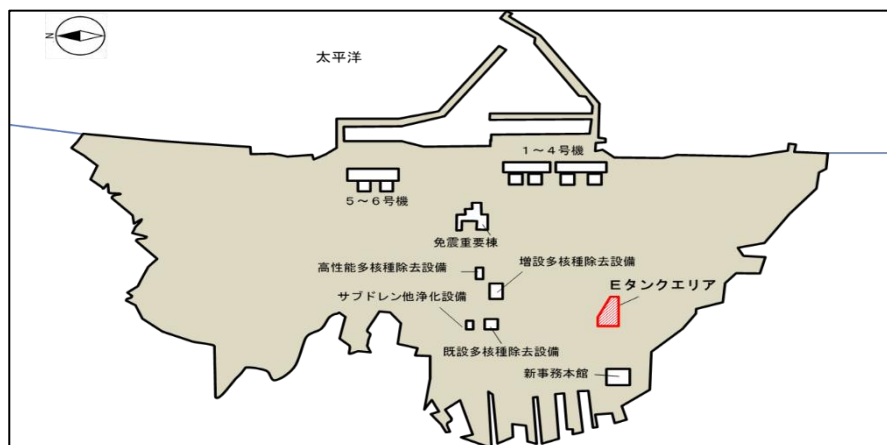
4 確認結果の概要

(1) Eタンクエリアのフランジ型タンクの残水移送作業の状況

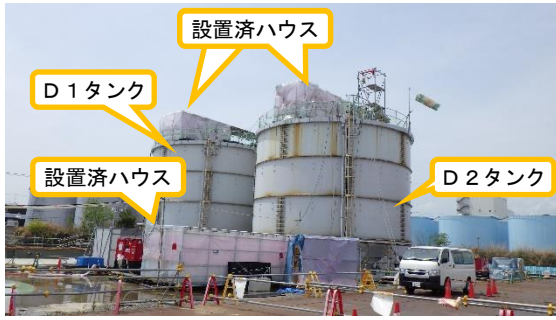
Eタンクエリアのフランジ型タンク解体作業において、一部のタンクに底部残水（RO濃縮水）の α 核種濃度が高いことが確認されたため、漏えいのリスクを低減するために、タンク内の残水やスラッジの移送作業が進められていることから、その状況を確認した。（図1）

なお、当該エリアでは、今回確認したD1・D2タンクを含む3基を除く46基のフランジ型タンクの解体が完了している。

- ・現場では、移送作業を行うフランジ型タンク（D1、D2）上にフィルターを設置するためのハウスの設置が進められており、タンク上にはハウスの骨組みが組まれていた。（写真1）
- ・タンクの近傍には監視小屋が設置されており、監視小屋にはハウス内部の状況を監視するためのモニターやダストモニタが設置されていた。（写真2）
- ・東京電力では、D1・D2タンクの解体にあたり、残水の移送、底部のスラッジ回収（D1のみ）、内部の洗浄を行うとしている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
D1、D2タンクエリア概観
(北東側から撮影)



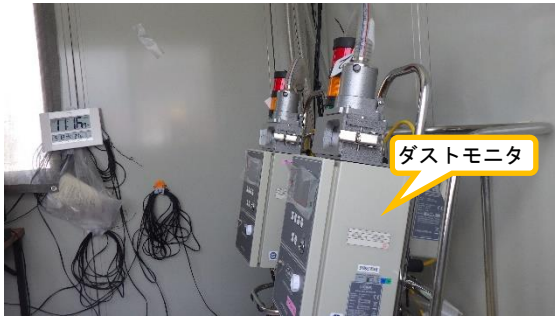
(写真1-2)
D2タンク上部の状況 (北側から撮影)



(写真2-1)
監視小屋の外観
(北西側から撮影)



(写真2-2)
監視小屋内部の状況①



(写真 2 - 3)
監視小屋内部の状況②

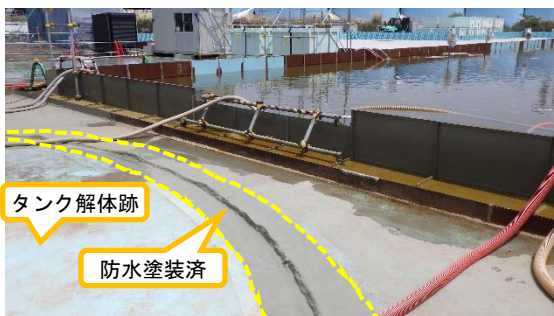
(2) Eタンクエリアの堰等の補修状況

3月20日のタンクエリアパトロールにおいて、内堰の雨水の水位が低下していることが確認されたEタンクエリアにて、堰等の補修がされたことから、その状況を確認した。(図1)

- ・コンクリート堰と鋼製堰の境界が補修されており、堰の表面に樹脂製の塗料が塗布されていた。(写真3)
- ・タンク解体跡は、解体されたタンクの縁に沿って防水塗装が塗布されていた。(写真4)



(写真 3)
堰の補修状況



(写真 4)
タンク解体跡の防水塗装の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。